

CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	愛彩フレッシュセンター増築工事	階数	地上1F
建設地	京都府福知山市宇多保市小字手次	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	40人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年4月 予定	評価の実施日	2011年7月1日
敷地面積	39,169 m ²	作成者	稲塚 雄一
建築面積	4,109 m ²	確認日	
延床面積	4,106 m ²	確認者	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★☆☆☆☆

S: ★★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B⁻: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆☆

標準計算
 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.9

Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 建物内外装の気密・断熱性能を高めることで、室内衛生環境を維持すると共に空調負荷を低減し、省エネルギーに配慮。	その他	
Q1 室内環境 各室用途に応じた室内温度環境を計画。開口部はエアタイト仕様の建具とし、遮音性能を高めている。空調エネルギー低減・結露対策のため屋根・外壁等高い断熱性能を有す。内装仕上は全てF☆☆☆☆とし、VOC発生を	Q2 サービス性能 天井内スペース・屋外設備架台等はメンテナンス性を考慮し、建物維持管理が容易な計画。バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たしている。主要な内装仕上材・配管等は高耐久性材を採用。建物計画は自由度の	Q3 室外環境(敷地内) 既存工場と調和の取れた外観デザインとすることで、連続した自然な外観イメージとした。
LR1 エネルギー 断熱性能・気密性を高めることで空調負荷を低減し、省エネルギーを図る。	LR2 資源・マテリアル 地中梁・地下ピットを構成する建材に高炉セメントを使用し、環境負荷低減を図る。衛生器具は節水型を採用、建物解体時の分別を容易な計画とし、環境負荷低減を図る。燃焼機器を使用せず大気汚染を防止する。	LR3 敷地外環境 雨水流出抑制対策として、増築建物の下部全てを雨水貯留ピットを計画。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される